

## 偉大な先輩を超えるであろう後輩達へ



先日、我がラグビー部🏉が令和3年度全国高校7人制ラグビーフットボール山形県予選大会で優勝し、全国大会出場を決めました！（ラグビー部さん、大志先生おめでとうございます！！）

いよいよ6月4日、5日、6日に県高校総体が開催されます。（陸上の県高校総体はすでにスタートしています。バレー、サッカーも今週末からスタートです。）東北大会でインターハイ出場が決まる競技もありますが、この大会で2年振りの全国大会の切符が届きます。繰り返しになりますが、昨年の卒業生たちがどうしても挑みたかった大会です。チーム山形中央の皆さん、昨年の分も「条治を超える!!」のプライドを持って挑んでください！

激励を込めて、2019年No.33の翔友にある齋藤和哉先生（前校長）の言葉を紹介致します。『・・・今年本校の体育科が設置されて35年目を迎える。そして改めて思う、本校生徒のスローガン「条治を超える!!」を……。これまで本校体育科で学んだ卒業生たちは輝かしい歴史と伝統を築いてくれた。改めて感謝を申し上げたい。そして今もなお、体育科生徒諸君の頑張りが本校の活力となり、学校全体に勢いを与えている。自分を成長させようと、毎日朝早くから夜遅くまで直向きに練習に取り組んでいる姿を見ていると、改めて続けることの大切さを実感する。そしていつの日か、本校体育科で学んだ生徒たちの中から、偉大な加藤条治先輩を超える人材が出てくることを強く願っている。』



同じく 2019 年No.33 の翔友にある渡邊智隆先生の言葉を紹介致します。

『・熊本熊本市で開催された第 6 9 回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会が開催されました。生徒 2 名と大会に行ってきました。本校体育科の卒業生である水澤悠太選手から、「今回は現役最後の試合になります。3 回目の優勝を目指し頑張ります。」と 9 月頃連絡をもらいました。小学生の頃から一緒に練習したこともあり、今まで結果を宣言したことが無かったのですが、残念ながらベスト 1 6 で敗退してしまいました。今年で 3 4 歳になりましたが、まだまだ戦える、気力も体力もありながらチーム事情により引退することは残念でなりません。毎年のように後輩の指導をしてくれました。本当に感謝しております。そしてお疲れ様でした。偉大な先輩を超える後輩を待っていてください。・・・』水澤先輩は、ソフトテニス部顧問の渡邊先生が育てられた日本一の選手であり、本校屈指の知的アスリートです。（水澤選手の意識の高さや人柄が書かれてある翔友No.32 とNo.33 の渡邊先生の文章を 3 ページに抜粋致します。私が思うに、水澤先輩はソフトテニス界の大谷翔平選手です！）



偉大な先輩を超える後輩を・・・どうでしょう？生徒の皆さんが思っているよりも先生方は選手の無限の可能性を信じ、共に闘っています。卒業生として伝えたいことは親御さん同様、先生方も一生懸命応援しているということです。厳しいようですが、身近にいる先生方の思いに気づかず、社会に出て応援されるはずがありません。私も当時の先生方に指導して頂いたお陰で、皆さんにこのような立場で出逢うことができました。当時は厳しい指導についていだけで精一杯でしたが、今は感謝しかありません。山形中央高校のスポーツ魂は山形中央高校を愛し、生徒の可能性を信じた先生方とその思いに答えた生徒との本気のキャッチボールで磨かれてきました。「自分以上に闘ってくださる方がいる」そういう思いに気づき、感謝できたら怖いものはありません。本当に、いろんなところから、沢山の方々が応援しています。

勝負は苦しくて当たり前。今までの歩みを信じて、苦しい時こそ、**山形中央は強く明るく元気よく！**



## 継続は力なり

教諭 渡邊智隆

・・・ 『平成14年度全国高校総体も彼（水澤）は狙っていました。口には出しませんが「最後は自分が勝つ」という気魄が感じられたのを記憶しております。前年度開催されたジュニアオリンピック大会で、同期の伊藤祐輝選手が優勝し発奮したかもしれません。声の出し方にムラがない、落ち着いた目をしている、コートに出てくるのがいつも早くウォーミングアップの時間を確保する、休憩中も動きながら次の準備をしている、余計な話をしない、練習後更に追い込んだランニングとウエイトトレーニングを毎日継続。私は「やり過ぎだから、減らしなさい」と伝えましたが返事だけで変えてくれませんでした。迎えたインターハイは、優勝こそ逃しましたが準決勝（8回戦）まで勝ち進みました。

年末には、恒例になった水澤選手との練習会を今年度も実施しました。素晴らしい手本になってくれます。後輩達には優しく教えながら、自分のプレーで気になる部分はとことん追い込みます。その姿を見るだけでも勉強になるし、それを見て感じて欲しいから毎年来てくれるのでしょう。彼の後輩に対する思いだと感謝します。勝つ秘訣は？と尋ねると「長く続けることを心がけています。仕事と家庭、練習をバランス良くしていかないと潰れちゃいますからね。」と応えました。好きだからこそできるのですが、小学生から社会人まで愛好者が多いなかで頂点に立つくらい好きなのです。競技だけではなく、社会にでると共通することがたくさんあると思います。』

## 感性と創造性

教諭 渡邊智隆

『・・・秋に行われた天皇賜杯全日本総合選手権の出場権も獲得し、群馬県での大会でものびのびとしたプレーで健闘しましたが社会人チームに惜敗しました。しかし、本校卒業生の水澤悠太君が2度目の優勝という快挙を達成してくれました。競技人口が男女で約45万人いるなかで、頂点に立つためにどんなことを意識して練習に取り組んでいるのかを尋ねてみました。「特に他の人と変わらないと思います。」と予想どおりの答えの後に「相手の特徴はデータとしてかなり持っています。」と付け加えました。彼の性格は、人の話を良く聴き、見て確認し、確実に取り入れるという謙虚な性格だと感じます。そのうえで自分流を創り出す巧みさが備わってくるのでしょう。

その人が何としても成し遂げたいと願い、掲げた目標が何であるのかは、最初に感じること「初めの一歩」であり、その目標に向かう道の中でさらに五感を磨き、さまざまなことを感じ取って感性が高められていくと思います。そして、その先に創造性があるはずで、創造力を身につける目的は、自分しかできない個性的で芸術的なプレーや試合運びに繋がっていくのだと感じます。これは競技だけではなく生活していく中でも同じことが言えるのではないのでしょうか。・・・』